

## 船舶事故調査報告書

平成29年8月31日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 庄 司 邦 昭（部会長）  
 委員 小須田 敏  
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成28年12月24日 06時30分ごろ
発生場所	鹿児島県薩摩川内市上甕島冠埼沿岸 里埼灯台から真方位005.5° 1,485m付近 （概位 北緯31°51.0′ 東経129°55.9′）
事故の概要	漁船寿恵丸は、南進中、冠埼沿岸の浅瀬に乗り揚げた。 寿恵丸は、甲板員1人が負傷し、船首部船底外板に破口を生じた。
事故調査の経過	平成29年3月30日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
<b>事実情報</b> 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 寿恵丸、4.9トン KG3-31538（漁船登録番号）、個人所有 12.75m(Lr)×2.90m×0.83m、FRP ディーゼル機関、404.50kW、昭和61年3月13日 第295-36010号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 74歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年11月28日 免許証交付日 平成26年10月1日 （平成32年5月16日まで有効） 甲板員 男性 60歳
死傷者等	重傷 1人（甲板員）
損傷	船首部船底外板に破口
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の初期 日出時刻：07時15分ごろ
事故の経過	本船は、船長及び甲板員1人が乗り組み、上甕島射手埼南南西方沖約400mの漁場における刺し網漁の操業を終え、レーダーとGPSプロッターの画面で船位を確認しながら、平成28年12月24日06時20分ごろ手動操舵で冠埼を西方に約250m離すように針路を定め、県薩摩川内市里港に向けて帰航を開始した。 船長は、作業灯を消灯し、操舵室内中央の操縦席に腰を掛け、周囲

	<p>に目が慣れるまで5～6ノット（kn）の速力（対地速力、以下同じ。）で航行した後、約10knに増速した。</p> <p>船長は、増速を始めた頃、レーダーとGPSプロッターの画面で船位を確認し、無線で僚船が知らせる漁の様態を聞きながら、手動操舵のまま、舵中央の状態で行っていたところ、06時30分ごろ衝撃を感じ、本船が浅瀬に乗り揚げたことに気付いた。</p> <p>船長は、急いで機関を後進運転としたところ、離礁したので、本船を後退させ、甲板員の様子を見に船首部へ移動したところ、甲板員が額から出血して伏せた状態で意識を失っているのを認め、無線により僚船に本事故の発生を知らせるとともに、救急車を要請しながら帰港した。</p> <p>甲板員は、救急車で診療所に搬送されたのち、串木野港に運ばれて病院に搬送され、頸髄損傷、硬膜外血腫及び前頭骨骨折と診断された。</p> <p>（付図1 事故発生経過概略図 参照）</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船の喫水は、船首約0.4m、船尾約1.0mであった。</p> <p>船長は、夜間、上甕島北側の海域から里港に帰港する際は、レーダー及びGPSプロッターの画面を見て、冠埼を西方に約250m離して航行しており、本事故当時も同じ程度の離岸距離で航行する予定であった。</p> <p>船長は、増速後、無線で僚船が知らせる漁の様態に注意を向け、レーダー及びGPSプロッターの画面を見ていたものの、船位を確認していなかったと本事故後に思った。</p> <p>甲板員は、船首部で前方を向いて立った状態で、網の手入れを行っていたところ、乗揚の衝撃で転倒して負傷した。</p>
<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、冠埼東方沖を南進中、船長が、無線で僚船が知らせる漁の様態に注意を向け、レーダー及びGPSプロッターで船位の確認を適切に行っていなかったことから、いつしか舵を右に取った状態となり、右転しながら冠埼に接近していることに気付かずに航行し、冠埼近くの浅瀬に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、夜間、本船が、冠埼東方沖を南進中、船長が、無線で僚船が知らせる漁の様態に注意を向け、レーダー及びGPSプロッターで船位の確認を適切に行わなかったため、右転しながら冠埼に接近していることに気付かずに航行し、冠埼近くの浅瀬に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<p><b>参考</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考え</p>

	<p>られる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・レーダー及びGPSプロッターを有効に活用し、船位の確認を適切に行うこと。</li><li>・沿岸付近を航行する際は、十分な離岸距離をとること。</li></ul>
--	--

付図1 事故発生経過概略図

